

会議結果報告書

1	会議名	ごみ有料化に関する説明会（事業者向け①）
2	日時	令和3年12月24日（金）18:30～19:30
3	場所	市役所本庁舎4階 会議室1
4	出席者	（資源循環課）原田主査、永井副主査 （環境事業センター）富田所長、小川所長補佐 （事業者）参加人数：3人
5	内容	<p>資料に基づき、ごみ有料化に関する説明会を実施した。主な質問と意見は次のとおりであった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 美容室を運営しているが、髪の毛は何ごみか。それを地域の集積場所に出すのは可能か。 → 事業系一般廃棄物（燃やせるごみ）として、緑色の指定袋を使用し、地域の集積場所にお出しいただける。その際は、自治会の承諾を得た上で、1回40ℓの制限内でお出しいただき、指定袋に事業者名を記名していただく。 ● 指定袋に入っていれば、透明・半透明の袋に入ったごみを中に入れてもよいか。鳥獣対策として実施したい。 → 可能である。 ● 事業系の指定袋のサイズを教えて欲しい。 → 事業者用の指定袋については、20ℓと40ℓのサイズに応じて販売し、それぞれのサイズは、たて×よこ×マチで、600mm×330mm×170mm、750mm×450mm×200mmである。 ● 排出制限については、重さに関係しないか。 → 重さに関係ない。1回40ℓの制限内でお出しいただくことになる。 ● 指定袋から水が漏れることはないか。 → 袋が破けない限り漏れることはないが、一般廃棄物に該当する食品残渣などを出す際は、可能な限り水切りをお願いする。 ● 食品残渣は何ごみか。 → 産業廃棄物の種類のうち「動植物性残渣」については、食料品製造業に伴って出される場合は、一般廃棄物（燃やせるごみ）に該当しない。従って、指定された業種で事業を営まれている場合は、産業廃棄物の処理業者に委託することになる。 ● 今まで集積場所に出していた廃棄物を、いきなり収集できないといわれても困る。 → 廃棄物の適正処理については、従来、法に規定されている内容であり、ごみ有料化に伴って変更されるものではない。自らを守る意味でも、適正処理についてはご

確認をいただきたい。

- 集積場所に出す場合は、自治会の承諾が必要とのことだが、承諾を得た場合、どこかに表示されるか。

→ 自治会によって運用が異なるため、一概には言えないが、自治会によっては申請書などを提出させているところなどもある。

- 茅ヶ崎市の収集職員は、長い経験の中で、集積場所に出されているごみが、産業廃棄物であるか、事業系の一般廃棄物であるか判断できないか。

→ 排出者が誰なのか、袋に入っている廃棄物の種類は何であるかを収集時に間違いなく判断することは困難であるとする。

- 集積場所に出す場合は、自治会の承諾が必要とのことだが、自治会に判断を丸投げするのではなく、市がその判断ができるように考えるべきである。

- 指定袋はℓを単位としていて、直接搬入はkgを単位としている理由はあるか。

→ いずれも排出量に応じてごみ処理手数料をご負担いただくことになるが、集積場所に出された指定袋を一つひとつ計量することは困難なため、袋のサイズを示すℓを単位としている。

- 事業活動に伴い排出されるペットボトルは産業廃棄物か。

→ そのとおりである。産業廃棄物の種類のうち廃プラスチックに該当する。

- 家庭から出るペットボトルは従来どおりの出し方か。

→ そのとおりである。

- 指定袋の値段は、消費税込みの値段か。

→ 別途、消費税分をいただくことはない。

- 一般廃棄物の収集運搬業者のリストは市のホームページに掲載されているか。

→ 掲載されている。

- 一般廃棄物の処理委託の料金の内訳を教えて欲しい。

→ 収集運搬料金と処分料金に大別される。

以上